

ゴム報知新聞 2020年7月20日 <特集：ロール・ブランケット>に掲載



東商ゴム工業

東商ゴム工業の2020年6月期業績は、売上高が前期比4.3%伸長し増収増益となった。売上構成品の2割を占めるOA機器ローラーが採用機種的好調で受注が伸びたほか、8割を占める多品種・小ロット品も堅調だった。

多品種・小ロット品は幅広い製品を展開しており、取引先は170社以上におよぶ。牽引役となったのが、繊維用と建築資材用の2種で、繊維用は市場が停滞気味のなか採用機種の取り換え需要が安定、建築資材用はオリンピック関連も追い風となり市場は活況

で需要も堅調に推移した。

同期は人員の増加も業績に貢献した。同社では社員の年齢構成の高さから定年退職者の増加を見越し、3年ほど前から積極的に中途採用を実施。ベテラン社員から新規採用社員への技術

人員増で製造体制整い業績向上

の継承を行ってきた。定年退職者数以上の採用も実施しており、その結果、現在の社員数は44人と元の社員数から10人ほど増加。「彼らの技術承継も完了し、旺盛な需要にもしっかりと対応できる製造体制が整ったことが業績のプラスにつながった」（東商ゴム

工業）。

2021年6月期業績は「新型コロナウイルスの影響が出ており、厳しい状況」（同）としながらも、前期比5.4%増収を計画している。「売上高を追求するよりも付加価値を重視していく」

（同）方針で、製造工程の段取りや原材料を見直すとともに陥没価格是正にも取り組んでいく。

価格是正については、「2019年10月に経理部門を横芝工場に移管したことにより不採算品の顕在化と抽出が容易となり、レートを見直している。対

象アイテムは180件ほどあり、20年6月期中に6割ほどに是正をお願いした。離れてしまったお客様もいるが、スタッフの生活の安定と向上という経営理念に基づき、残り4割についても引き続き話を進めていく」（同）。

製品面ではOA機器用と建築資材用に期待を寄せる。OA機器用は官公庁向けの機種を扱う取引先からの受注が継続したことで安定した需要を見込む。一方、建築資材用は、押出成型機（MAX φ 150）と円筒研削盤（MAX2,000L）等を備える横芝工場で一貫生産が可能なことから、「当社の強みを活かせる製品」（同）として自信を持って展開していく。